

INDEX

1 キャリアデザイン学部の取り組みを紹介

学部・研究科のFD活動を紹介するシリーズの第5弾。今回は、キャリアデザイン学部の取り組みをご紹介します。

2 第12回FDワークショップ開催報告

9月12日(金)に市ヶ谷キャンパス外濠校舎で開催された第12回FDワークショップについてご報告します。本ワークショップでは、SD活動の一環として、学務部研修も兼ねています。第1部では、昨今新たな取り組みで大変話題となっています近畿大学より広報部課長をお招きし、近大流の広報戦略をお伺いしました。第2部では、グループワークと大学事務でよくあるとっさのひとこと英会話のプロジェクト発表を行いました模様をご報告します。

発行：
法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ
<http://www.hoseikyoiku.jp/fd/>

問い合わせ先
fd-jimu@hosei.ac.jp

学部・研究科の取り組み掲載のご要望、承ります。

1 キャリアデザイン学部の取り組みを紹介！

第5号は、キャリアデザイン学部に今年度のFDの取り組みをご紹介します。

体系的なFDの取り組み

キャリアデザイン学部では、学部FDミーティングを中心に、組織的な取り組みを行っています。

▼キャリアデザイン学部のFDへの主要な取り組み図

教職員・キャリアアドバイザー
学部FDミーティング
(年3回、学部全体のFD活動の計画と点検)

教員

教授会内「FDの時間」、教務委員会によるシラバス・チェック、相互授業参観、科目別のFD研修会

キャリアアドバイザー

日常的な個別相談、低単位取得者・留級者との面談、体験型科目の授業支援

学生

新入生対象の履修相談会、学生研究発表会

“起爆剤”はカリキュラム改定

もちろん最初から、こうした取り組み全体が計画的に実施されたなどということはありません。すべては、その都度「必要なことは、やらなくちゃ」と“突貫工事”をしてきた結果です。そして、そうした突貫工事を促す要因となったのは、この学部が、設置から11年しか経っていないにもかかわらず、すでに二度も教育課程の改革を断行したことにあります。「学部の教育に何が足りないのか」「授業改善のためには何が必要なのか」をめぐって、学部ぐるみで侃々諤々の議論をしてきました。要するに、「必要は発明の母」です。

最新のメニューは科目別のFD研修会

こうして、いつまでも続く突貫工事の一つとして、今年度から始めたのが科目別のFD研修会です。昨年度までは、学部全体でのFD研修会を、兼任講師の方にもご参加いただく形で実施してきました。専任・兼任の複数の教員が「私の授業論」を発表するなど、それなりの成果はあったと思うのですが、学際的な学部であるがゆえに、授業の中身そのものに踏み込むという点では“限界”もありました。

そこで、今年度より始めたのが、複数コマ展開をする科目(基礎ゼミ、キャリア研究調査法)、相互に関連する科目群(各分野の入門科目A~D、体験型選択必修科目)について、それぞれの科目別にFD研修会を実施するという事です。共通の土台に立つ授業の担当者同士(兼任講師の方も含めて)でのFD研修会であるがゆえの効果が期待できると思っています。が、いまだ進行中の取り組みですので、いずれまた発表の機会を与えていただければ詳細をご紹介します。

番外編

新任教員の採用時の模擬授業は“真剣勝負”のFD

キャリアデザイン学部では、新任教員の採用の際、候補者には教授会メンバー全員の前で模擬授業をやっていただくことが原則となっています。候補者は、もちろん本気で授業準備をします。迎える教員側も、かなり真剣に、張り詰めた雰囲気です。これはこれで、どこよりも真剣勝負のFDになっているのかもしれない。

今回、番外編としてご紹介いただきました新任教員採用時の模擬授業は、キャリアデザイン学部新任教員の登竜門であり、授業相互参観のスタートダッシュとして、大変興味深い取り組みだと感じました。(編集担当)

2 第12回FDワークショップ「大学職員発ブレークスルー～教育の質的転換のために～」開催報告

2014年9月12日(金)に、第12回FDワークショップを市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー26階スカイホールにて開催いたしました。本ワークショップは、SD研修として学務部職員の研修も兼ねての開催でした。

当日は、佐藤良一教育支援本部担当常務理事の挨拶から始まりました。お決まりの「研修の挨拶」ではなく、佐藤理事はご自身でパワーポイントを用意されて、趣向を凝らしたご挨拶をいただきました。「思いがけないものの発見」や「多様なものの見方」について、だまし絵を使ったわかりやすいお話に会場一同釘づけになりました。

次に、第1部基調講演として、近畿大学広報部より加藤公代課長をお招きし、『近大流 広報戦略 ～固定概念をぶっ壊せ～』というタイトルで、ご講演いただきました。



答えは、L I F Eです。

2013年4月に行った広報部の組織改編を機に、新たな広報戦略を進めたそうですが、皆様ご存知の通り昨今の教育関連の新聞記事では頻りに近大の名を目にし、着実に近大の広報戦略は発展しているように思えます。その発展の一端について、同業でありながらも本ワークショップでは惜しげなくご披露くださいました。

限られた広報予算からいかに効果を出すか…。どの大学でも、どの企業でも悩みの種ですが、近大では、「選択と集中」をキーワードに広報を行う媒体についても検討を行い、他大との差別化に取り組んでいるそうです。

例えば、入試のWeb出願の広報においては、他大が「Net割」という言葉を用いているのを念頭に、割引という安売りイメージは避けつつ、他大では出していない印象的なネーミングと効果的なキャンペーンを考え、『エコ出願』という新規ワードを作成。東京スカイツリー3本分の用紙を節約するというストーリーと「かみ頼みの受験は、もうやめた。」というキャッチコピーと共に世に送り出しました。このような巧みな選択と集中を行った広報の効果については、ここで特筆しなくてもご存知のとおりです。

『エコ出願』という言葉の商標登録まで行ったという話には、驚きました。それほど、この一言に託した大学の思いは強かったのでしょう。

志願者数首位、近大マグロ、ド派手入学式…とインパクトのある話題が多い近大ですが、こういった地道な広報戦略があるからこそ、相乗効果を生んでいるのだと感じました。

次に、第2部では学務部研修会としてグループワークを行いました。事前に班分けをした8グループに当日テーマが渡され、その内容についてグループで意見を出し合い、各グループのリーダーが結果を発表しました。

テーマは、(1)法政大学の情報発信力強化 (2)学生が利用したくなる窓口 (3)学生と協働できる大学事務窓口はあり得るか？(学内インターンシップ) (4)アクティブラーニングの活性化 の4つでした。



双方向授業のツールとして普段は授業で利用している「クリッカー」を用いて、各班の発表に対して全員で評価を行い、即時に情報共有するという新たな取り組みで行ったのも好評でした。

引き続き第2部後半では、学務部の1年目から3年目の職員による「とっさのひとこと英会話<大学業務編>」のプロジェクト発表が行われました。



学部窓口で想定される、履修や授業に関する相談や、申請書の受付、証明書の発行、レポートや卒論の受領、試験時の対応など、一般の英会話本には載っていないような大学職員ならではの英会話文例を夏季休暇期間中に冊子にまとめ、その成果報告を行いました。シチュエーション別に細かく分けた文例集となっており、すぐにでも業務で使用できそうな事例ばかりでした。今後は、製本化することによって仕上がりも楽しみです。

例年とは、少し趣向の違ったFDワークショップ。今後の業務のヒントにつながれば幸いです。



| プログラム | |
|---|--|
| 司会 | 第1部 理工学部教授 平塚 誠 (法政大学FD推進プロジェクト・メンバー) 第2部 学務部学務課課長 幸野 広作 |
| 【第1部】 | |
| ◆開会挨拶 (13:00~13:10) | 教育支援本部担当常務理事 佐藤 良一 |
| ◆基調講演 (13:10~14:10) | 「近大流 広報戦略 ～固定概念をぶっ壊せ～」 近畿大学 広報部 課長 加藤 公代 氏 (基調講演50分、質疑10分を予定) |
| ----休憩 (14:10~14:30)---- | |
| 【第2部】学務部職員研修会(学内職員対象) | |
| ◆グループワーク (14:30~15:30) | |
| ◆発表・評議 (15:30~16:20) | |
| ◆とっさのひとこと英会話<大学業務編>プロジェクト発表 (16:20~16:50) | |
| ◆最終講評 (16:50~17:00) | 学務部長 近藤 清之 |